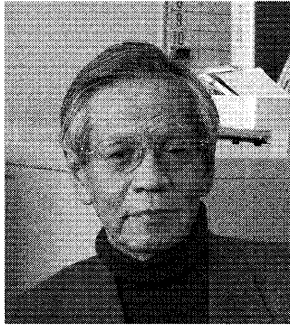


## 岩崎浩三教授



### 主なご経歴

- 昭和35年3月 国際基督教大学卒業
- 昭和35年4月 東京都 民生局
- 昭和51年5月 ワシントン大学大学院（米国）修了 Master of Social Work
- 昭和58年4月 東京都立川児童相談所
- 昭和62年4月 東京都八王子児童相談所
- 平成10年4月 岩手県立大学社会福祉学部助教授
- 平成13年3月 ハミルトン大学大学院（米国） Ph. D. in social work
- 平成14年4月 岩手県立大学社会福祉学部 教授

## 岩崎先生と子供たち

人種や民族を超えて瞳を輝かせ、結び・つなぎあう子供たちの笑顔。岩崎先生がいつも私たちに与えて下さるメッセージは、このあふれるばかりの暖かさである。人が歩み始め、少しずつ立ち上がり、飛躍への準備を始めていく、子供たちの時の意味を教えて下さる方である。

誠実さと緊張した場をしばしばほぐす巧まざるユーモアと持ち味で、私にとっては昔から教えて頂いてきた先生のように懐かしい。授業の折にはなかなか手に入れることの難しい最近のデータを学生や院生に伝えて下さり、その暖かさと共に、今、世界で何が起きているかを即座に教えて下さったと、多くの学生から聞いている。先生の研究室に何うと、いつも何人もの学生が、まるで自分の居心地の良い研究室のように、一生懸命勉強している姿があった。先生の教育への熱い想いとお人柄によるものだろう。

先生のご専門は、児童福祉の分野であると、初め私がお目にかかったときにはそう思っていた。しかし、学ばせて頂いて、児童分野とともに、ソーシャルワークにおける国際比較の意義をご自分の実践と研究、両者の統合を基に、貴重なご示唆を下さっていると、改めてその大きさに想いを至らせている。先生がご尽力された、厳密な邦訳による国際ソーシャルワーカー協会の倫理綱領は、1つの道しるべとして、私たちの将来を指し示すものだと思う。主要な国際会議で、参加者の心を打つことのできるスピーチを当たり前になされる先生のお姿が、学生や教員にお見せになる飄々としたご様子と重なり合う。ある会議でご一緒したときに、年末のお忙しい中、昔フランスに養子縁組をし、成長した子供たちに会いに行くと言われていた。一人のために、またその人と共に歩まれるお姿は、ソーシャルワーカーとしての原点を示して下さい。先生は、ご著書の中で、次のように研究者のあり方を述べておられる“Researchers must join together with their counterparts in other countries in an effort to obtain knowledge that will ultimately result in a better childhood for vulnerable and troubled children everywhere.(2001)”世界各国の子供たちの健やかな成長と平和、また多くの困難に直面する各国共通の課題等が山積する中で、岩崎先生のお力はますます欠かすことができない。

他の方のことを心から励まし、慈しんで下さる岩崎先生にとって、ご家族との暮らしに久し振りに戻ることができるとも伺っている。ご健康にお気をつけ頂き、先生にはこれからも、大学院や研究機関で支え続けて下さることを心からお願いしたい。私たちに人の生き方の素晴らしさをお教え頂き、本当にありがとうございました。

(野村豊子)